

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

今年の乗鞍善五郎の滝



1月4日、岳陽高校山岳部は、恒例のアイスクライミングに行った。場所は乗鞍善五郎の滝。昨年は暖冬傾向で氷の発達が悪かったが、今年は結構いい氷であった。アイスクライミングの時は、山岳会の仲間が頼りになる。今年もOB二人の協力を仰いで実現した次第。感謝、感謝。もちろん、学校も審査会もクリアしている。

僕がリードで右の小滝にルートを開く。最初足場が安定せず、なかなかスクリュウを打つことができずに、ランアウトしてちょっとビビったが、何とか上まで抜けることができた。そこから回り込んで本流の上部に登り、トップロープを2本垂らした。ゲレンデのでき上りである。

去年の経験が生きているのか、2年生は最初からスムーズだが、少しかぶり気味の氷だったので、登るのにはずいぶん苦戦していた。慣れない生徒は一回登ると、手がパンパンになる。それでも、何度も登り本当にもう手が動かなくなるくらいまで楽しんでいた。

アイスクライミングはやりだすと本当に楽しい。しかし、厳冬期のみの期間限定のお楽しみなので、そうそう連れていく事はできないし、こういう機会を提供できるのは貴重だ。それを可能にしているのが先に書いた通り、社会人のサポートだ。

全国各地の冬山をめぐる状況（神奈川・A県・長野）

【神奈川県】井上康輔先生からの情報：神奈川は12月26日に審査会がありました。保健体育課、高体連事務局、登山専門部、県岳連のメンバーが集まりました。専門部からは副部長の私と間瀬委員長、久保村副委員長が出席しました。まず冬の登山についての考えをまとめました。県内の高校生が冬に行く山は丹沢、奥多摩、大菩薩など神奈川周辺の2000m程度の山で、雪がないことが多いので基本的にOK、安全のため積雪が多いときにはその都度検討。その後各校から提出された2月までの山行届を審査しました。1月末の新人大会も今まで通りOKでした。

【A県】B先生からの情報：本県での冬期講習会は委員会の指導にて中止を命ぜられました。雪上での活動のみを中止ならば理解できるのですが、スキー実習や、屋内での発表会、講習会などもすべてやるなということです。冬期に講習会をすること自体、文科省やマスコミに知られることを恐れているようにしか思われません。机上での講習も許可されない状況です。そこで来シーズンに向けて、ブロックや全国でどの程度の講習会が許可されているのか知り、教委との交渉資料にできればと考えます。長野県のような理解を得られるとは思いますが、少しでも活動ができるようにしなくては、これからの若手が育ちません。（筆者注：長野も楽観できません。以下参照）

【長野県】大西からの情報：長野県中信地区の研修会（顧問・生徒対象）を計画したところ、中信地区の高体連会長からクレームがあった。この研修会は12月7日に開催された中信安全登山研究会のおりに決定した内容で、12月18日に通知（かわらばん631号で紹介した内容）を出したものである。その通知について中信地区高体連会長から「今年は冬山での講習会はするな」という、いわれのないクレームがついた。研修内容も例年以上に安全に配慮したものをする予定で、計画を立て、中信校長会会長と中信安全登山研究会会長が許可し、二人の校長が連名で通知を出したものだっただにもかかわらず。この研修会は、もともと中信安全登山研究会が自主的に始めた研修会（第1回は2003年に開催）で、かわらばん72号（2003/10/13）には以下のような紹介がある。「夏の中信安全登山研究会で、往時に比べてどの学校も山岳部の活動に元気がなくなっていることが報告されました。じり貧傾向の山岳部の活動を前にして、どうしたらいいのかが議題に上りました。そこでは、生徒以前に顧問が元気を出そうということが話題になったわけです。しかし議題が別にあり、時間も一時間半程度と制約のあるこの会議では議論は深まりません。そこで、活性化の第一歩として、顧問が年に一回くらい、山のことでじっくり一晩膝を交えて話をするような機会を新たにもてないだろうかということになったのです。またどうせ集まるのなら、顧問としての力量を上げるような研修会も設定してはどうだろうかという話に膨らんできたのです。（中略）みんなが集まりやすいように、授業には影響しないような形で金曜日の夜から土曜日にかけての設定にしよう。とにかく手作りの形で、経費がかからないように合宿所を使用しよう。山岳部の顧問は全員が参加しよう。山岳部に関係したり、興味を持っている人は、現在山岳部を持っていないでも一人でも多く集まれるようにしよう・・・というようなことが決まったのです。」こうして始まった研修会ですが、毎年課題を見つけて研修を深める中で、数年後には生徒も一緒に参加できる形にして開催するようになったものだ。そして、それを聞きつけた中信高体連が「生徒に資する事業でもあるから、高体連としても応援したい。高体連の講習会と位置付けて補助金を出す。」ということで、補助金を交付してくれて、昨年までは極めて友好的に開催されてきたものだった。そういった経緯があるにもかかわらず中信高体連会長から、「高体連として認めていない」などとクレームをつけられた。

それについて、県の登山部長でもあり中信安全登山研究会会長でもある大町岳陽高校長から、安全性や過去の経緯などを話していただいたが、先方は「冬山はダメ」の一点張りであった。長野県が他県にさきがけて策定した「高校生の冬山・春山登山に関する安全確保指針」の精神をまったく理解していない暴挙というしかないが、実現できる方向で本校の校長には今年に限りという限定で来年度にこのことは引き継がないという条件を先方に伝えてもらい、「大町公園と霊松寺山、山の子村キャンプ場周辺で研修を行う。」ことで認めてもらった。（この研修会の様子は次号で紹介）

編集子のひとりごと

長野県でも雲行きが怪しくなってきた。校長の考え方一つで全く対応が違う。長野県として積雪期登山については、いち早く方向性は出したものの、細かい部分まで詰めたものでなかったこともあり、実際の運用の場面で県の意向とすれ違うケースも生まれ始めている。全国各地の状況を共有したいので、情報をお持ちの方はお寄せください。公表の際、匿名（県）でも構いません。よろしくお願いします。（大西記）